

公益信託世田谷まちづくりファンド

第28回助成事業 審査講評

まちづくり活動部門

【2回目応募グループ】

< 3-1 おでかけサポーターズ >

- ・コミバスの運行の実現は、とても難しい取り組みであると思います。今、見えている利用者だけでなく、数年後の利用者となる人々のニーズも捉えて、事業計画を立てると良いと思います。
またこのような事業では、利用者と直接的な支援者だけでなく、「コミバスを走らせるのはステキな事業だ」とポジティブに捉えてくれる人が多くなることも大切だと思います。今年は、このような潜在的な応援者を増やすことも意識してみると良いと思います。

< 3-4 下北沢 リンク・パーク >

- ・まちの変化に伴って、場所を有効活用していきつつ、仲間を増やしてバラエティに富んだ活動を発展させていく。どのまちにも同じような動きが出たら、なんて面白い都市になるんだろうと想像してしまいます。まわりから見て、こうしたワクワク感が伝わる活動であり、それが仲間を増やしていける秘訣ではないかと感じます。コロナ禍でもできることという新たな発想もどんどん出していくと、アフターコロナにおいても強みになるのではないのでしょうか。まちづくり活動部門の2年目の活動は、思う存分動いてみるということを望みます。

< 3-7 0歳からの音楽会実行委員会 >

- ・人が集まる場をつくるのが難しい状況ではありますが、今だからこそ音楽が必要だとも思います。助成によって得られた経験値やつながりで工夫した活動を期待します。また、育児中の音楽家の皆さんへの活躍の場の提供という側面に大きな可能性を感じました。音楽を提供するだけでなく、音楽家のキャリア開発、社会貢献というテーマでの音楽家向け事業アイデアもあり得るのではないのでしょうか。3年目に向け、活動を持続発展させるための重層的な取組、多様な資源獲得に視野を広げていただきたいと思います。

< 3-9 認知症おうちカフェ★キラリ会 >

- ・自宅のリビングを開放しての事業はとても素敵ですが、一方で現在の状況は、新型コロナウイルス拡大防止の観点から出来なくなってしまうことも多いかと思います。

認知症カフェの今までの形に感染拡大防止対策を講じるだけでなく、運営が行き詰まってしまいがちだと思います。

ぜひ、この機会にちょっと視点を変えて「新しい認知症カフェの形」も模索し、挑戦してみてください。

< 3-10 ピンクシャツデーNIPPON >

- ・若者の生きにくさ、社会の息苦しさに対応していくためには、多様で個性あふれる取り組みも重要だと思っています。「コスプレ」といった手法だからこそ引き寄せる関心、出会える人、つながれる人、活躍できる場があることは、去年の取り組みの成果などからも強く感じました。今年度は、引き続きの活動に加え、ぜひ、集まってきている皆さんともう一步踏み込んだ関係づくりや推進組織の基盤強化、外部のパートナーシップ促進など、さらなる発展のための機会としてください。